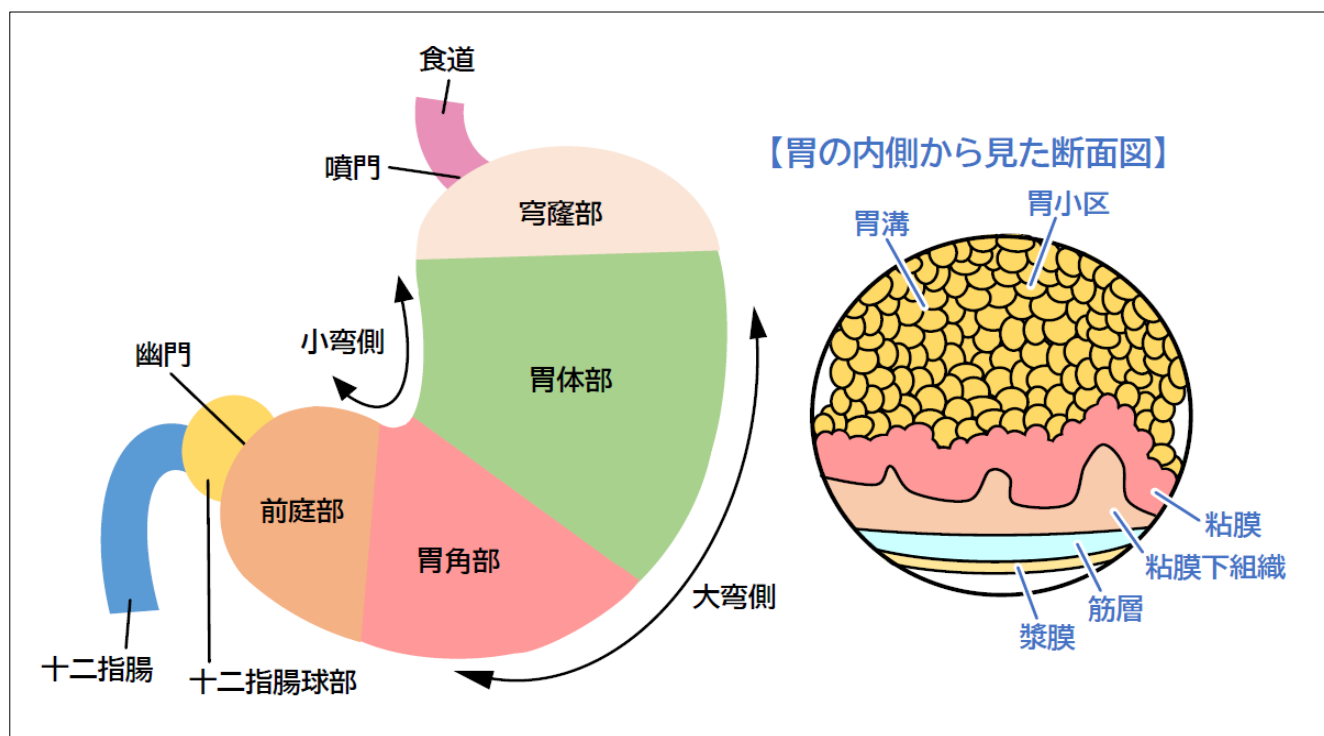


～ 胃部内視鏡検査 ～



食道裂孔ヘルニア

横隔膜にある食道が通るための穴を食道裂孔といいます。
胃の一部がこの裂孔から横隔膜上へと出てしまった状態です。

逆流性食道炎

胃の内容物の逆流により、食道に炎症が起きている状態です。
主な症状は胸やけ、胃酸逆流によって苦みや酸っぱさを感じる、
喉に違和感が生じる、などがあります。

バレット食道

食道の粘膜が胃の粘膜に置き換わった状態です。
逆流性食道炎が原因となる場合があります。
まれに食道がんが発生することがあるため、経過観察が必要です。

胃潰瘍

胃酸の影響により胃粘膜がただれた状態を潰瘍といいます。
ピロリ菌感染やストレスなどが原因です。

萎縮性胃炎

胃の炎症が長期にわたって生じ、胃粘膜が薄くなってしまった状態です。
ピロリ菌感染によるものが最も多く、進行すると胃がんや胃潰瘍などの
病気になる可能性が高くなります。定期的な内視鏡検査をお勧めします。

胃底腺ポリープ

胃粘膜にできる良性の隆起したもので、中年女性に多くみられます。
ピロリ菌のない胃に発生することが多く、胃がんのリスクは低いといわれています。

びらん性胃炎

びらんとは潰瘍よりも浅い粘膜組織に欠損が生じている状態です。
ストレスが原因の場合が多く、症状が進むと胃潰瘍となります。

十二指腸潰瘍

胃と同様に、十二指腸の粘膜がただれた状態です。主にピロリ菌感染が原因です。
ピロリ菌除菌により、潰瘍の再発はほとんどなくなります。